

3.2.1.4 製薬会社に行ってみよう！

担当：森藤 知也

実施時期：令和5年8月4日(金)

場所：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
神戸医薬研究所

対象生徒：本校1,2年次参加希望生徒 計7名

西宮市立西宮高等学校1年生参加希望生徒 計6名

講師：前田 朋子 様 (創薬研究アライアンス部)



1.研究開発の経緯と目的

本校では1年次において化学基礎の授業を実施している。生徒にとって身近な「薬」を題材として、化学分野、特に製薬への関心を深めるため、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社のご協力の下、今年度初めて本事業を実施した。本事業により、製薬分野への理解とともに、身近な現象を科学的に考える力が育成されることを目的としている。

2.仮説

本事業により、育むことができる力は以下の通りである。

	A:課題設定力	B:企画協働力	C:論理考察力	D:自己学習力	E:表現理解力	F:知識・技能
仮説			○	○		○

新薬開発の方法を学ぶことから、製薬に関する知識・技能の向上が期待できる。また、研究所での説明を通じ、製薬研究の必要性について考察することから、論理考察力の向上も期待できる。さらに、講義全体を通じて製薬分野に興味関心を持つことで、自己学習力についても向上すると考える。

3.研究内容・方法

講師から新薬開発の流れと必要性について講義を受けた後、製剤、分析、動物安全性に分かれた各研究施設の見学を行い、研究設備や研究内容の紹介を受けた。最後に、ベーリンガーインゲルハイム株式会社の若手研究者の方との座談会を行った。

4.検証

育むべき6つの力についての5段階の評価を行った。平均値は以下の通りである。

	A:課題設定力	B:企画協働力	C:論理考察力	D:自己学習力	E:表現理解力	F:知識・技能
平均(事前)	4.1	3.8	3.6	3.5	3.3	3.3
平均(事後)	4.4	3.9	4.0	3.8	3.6	3.8

仮説通り、論理考察力、自己学習力、知識・技能において特に向上がみられた。講師による講義では、参加生徒からの積極的な質疑応答があり、製薬への知識理解、論理考察力が深まったと考えられる。また、研究施設の見学終了後に行った若手研究員の方との座談会においては、製薬に関する疑問や、進路選択等について研究員の方からのお話を伺ったことで、製薬分野をより身近に感じることができるようになり、自己学習力の向上にもつながったと考える。「進路選択の一助になった」という参加生徒の感想も見受けられたことから、次年度以降も本事業を継続実施したいと考えている。